

ケイ マ カク ハントウ
〔東洋〕 桂麻各半湯 エキス細粒

*【組成】

本剤は、桂麻各半湯の水製エキスに賦形剤(トウモロコシデンプン)を加えて製したものである。

本剤4.5g中

局外生規ケイシ・・・3.5g 日局マオウ・・・2.0g
日局シャクヤク・・・2.0g 日局タイソウ・・・2.0g
生ショウキョウ・・・2.0g 日局キョウニン・・・2.5g
日局カンゾウ・・・2.0g

上記の混合生薬より抽出した桂麻各半湯の水製エキス3.0gを含有する。

【性状】

本品は、褐色の細粒で特異なおいと味を有する。(天然原料を使用するため、色調、味、においがロットにより若干異なることがあります。)

医薬品識別コード: TY-037

【効能・効果】

感冒、せき、かゆみ

【用法・用量】

通常 大人 1日 3回 1回 1.5g(1包)を空腹時経口投与
年齢症状により適宜増減する。

【使用上の注意】

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)

- 1) 病後の衰弱期、著しく体力の衰えている患者[副作用があらわれやすくなり、その症状が増強されるおそれがある。]
 - 2) 著しく胃腸の虚弱な患者[食欲不振、胃部不快感、悪心、嘔吐等があらわれるおそれがある。]
 - 3) 食欲不振、悪心、嘔吐のある患者[これらの症状が悪化するおそれがある。]
 - 4) 発汗傾向の著しい患者[発汗過多、全身脱力感等があらわれるおそれがある。]
 - 5) 狭心症、心筋梗塞等の循環器系の障害のある患者、又はその既往歴のある患者
 - 6) 重症高血圧症の患者
 - 7) 高度の腎障害のある患者
 - 8) 排尿障害のある患者
 - 9) 甲状腺機能亢進症の患者
- [5)~9):これらの疾患及び症状が悪化するおそれがある。]

2. 重要な基本的注意

- 1) 本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。
- 2) 本剤にはカンゾウが含まれているので、血清カリウム値や血圧値等に十分留意し、異常が認められた場合には投与を中止すること。
- 3) 他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。

*3. 相互作用

併用注意(併用に注意すること)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
(1)マオウ含有製剤 (2)エフェドリン類含有製剤 (3)モノアミン酸化酵素(MAO)阻害剤 (4)甲状腺製剤 チロキシン リオチロニン (5)カテコールアミン製剤 アドレナリン イソプレナリン (6)キサンチン系製剤 テオフィリン ジプロピリン	不眠、発汗過多、頻脈、動悸、全身脱力感、精神興奮等があらわれやすくなるので、減量するなど慎重に投与すること。	交感神経刺激作用が増強されることが考えられる。
(1)カンゾウ含有製剤 (2)グリチルリチン酸及びその塩類を含有する製剤	偽アルドステロン症があらわれやすくなる。また、低カリウム血症の結果として、ミオパチーがあらわれやすくなる。(「重大な副作用」の項参照)	グリチルリチン酸は、尿管でのカリウム排泄促進作用があるため、血清カリウム値の低下が促進されることが考えられる。

4. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。

1) 重大な副作用

- ①偽アルドステロン症:低カリウム血症、血圧上昇、ナトリウム・体液の貯留、浮腫、体重増加等の偽アルドステロン症があらわれることがあるので、観察(血清カリウム値の測定など)を十分にを行い、異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。
- ②ミオパチー:低カリウム血症の結果としてミオパチーがあらわれることがあるので、観察を十分にを行い、脱力感、四肢痙攣・麻痺等の異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。

2) その他の副作用

	頻度不明
過敏症 注1)	発疹、発赤、そう痒等
自律神経系	不眠、発汗過多、頻脈、動悸、全身脱力感、精神興奮等
消化器	食欲不振、胃部不快感、悪心、嘔吐等
泌尿器	排尿障害等

注1) このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。

5. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。

6. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

妊娠中の投与に関する安全性は確立していないので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。

7. 小児等への投与

小児等に対する安全性は確立していない。[使用経験が少ない]

8. その他の注意

湿疹、皮膚炎等が悪化することがある。

【取扱い上の注意】

薬の品質を保つため、直射日光を避け、できるだけ湿気の少ない涼しいところに保管してください。

【包装】

500g, 1.5g×336包(分包品)

【参考】

原典:傷寒論

参考文献:「明解漢方処方」西岡一夫・高橋真太郎共著

「漢方処方応用の実際」山田光胤著

「漢方診療医典」大塚敬節・矢数道明・清水藤太郎共著

「症候による漢方治療の実際」大塚敬節著

「経験漢方処分量集」大塚敬節・矢数道明監修

*【文献請求先】

製造販売元 株式会社 東洋薬行

〒113-0033 東京都文京区本郷6-19-7

TEL 03-3813-2263 FAX 03-3813-0202

株式会社東洋薬行

東京都文京区本郷6-19-7
